



市民ネットワーク 議会通信

2016年
千葉市議会第3回定例会
9月5日～10月3日



市議会議員
岩崎明子 渡辺忍 松井かよ子

平成27年度決算 認定しました

脱・財政危機まであと一歩、でも油断は禁物

財政健全化の進捗、住みやすいまちづくりの実現、市民参画が図られたかに着目し、未達成部分はあるものの方向性は理解できたため、決算を認定しました。45億円の実質収支を確保。借金も削減でき、脱・財政危機の道筋が見えた感があります。

収入不足を借入で解消

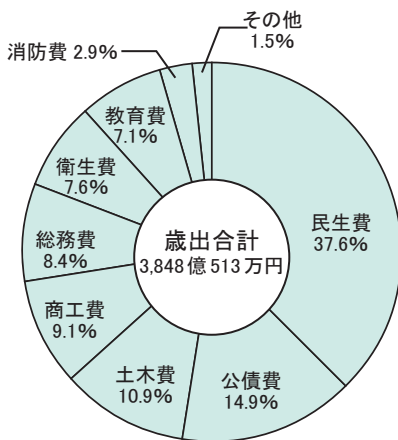
予算編成の当初は、138億円が不足でした。そのうち、経費削減や資産の有効活用、事業見直し等しても足りなかった56億円は、本来するべきではない退職手当債の発行と、市債管理基金からの借入でまかなうしかありませんでした。

借金残高は一人当たり106万円

市債(借金)は、5年連続で年間100億円以上削減し、1兆181億円に。26～29年度で400億円以上削減という目標を達成できそうです。市債は、長期間使う公共施設の建設費等を、将来世代にも負担してもら(平準化)のための、必要な借金とも言えます。

ようやく自立した財政へ

市の財政が健全かをみるための指標の一つが、実質公債費比率です。自治体の収入



歳出の37.6%が民生費(子ども子育て支援給付事業や生活保護費など)で、昨年度より77億2700万円増。一方教育費は7.1%で昨年度比6億8500万円減。子どもの数は減少傾向ですが、未来を担う人材育成にかけのお金は減らさないよう、求めています。

民生費は右肩上がりに

に対する借金返済の割合を示すもので、18%以上なら借金(起債)時に、国の許可が必要です。千葉市は現在18%ですが、来年度には許可不要で借金でき、自立できる見込みです。

市民と議員の意見交換会

詳しくはお問い合わせを

10月29日(土)	10～12時	みつわ台
10月30日(日)	15:15～17:15	穴川コミュニティセンター
11月1日(火)	18～20時	平凡(西千葉駅前)

11月2日(水)	10～12時	わかば事務所(都賀の台)
11月4日(金)	10～12時	大宮台
11月8日(火)	10～11時	みはま事務所(高洲)
11月11日(金)	10～12時	おやこカフェ(武石町)
11月14日(月)	14～16時	千城台コミュニティセンター

総務分科会：岩崎明子(若葉区)

「オリンピック・パラリンピックに向け、中高生通訳ボランティア講座の開催とまちなかボランティアの充実を」「防災備蓄は、日常食のローリングストックや、かかりつけ医と薬の備蓄を相談する等、市民の自助を進める周知啓発を」「チャレンジオフィスちばしで雇用した障がい者を一般就労へつなげる際は、当事者の気持ちに沿うこと」等を要望し、千葉市まちづくり未来研究所の、自転車によるまちづくり政策提言から実現まで、市民が主体的に関わる取組を評価しました。

保健消防分科会：松井かよ子(美浜区)

市の自殺対策について、相談の体制や予防啓発の取り組みを充実させるとともに、医療機関や「千葉市こころの健康センター(電話 043-204-1582)」等との緊密な連携を要望しました。

また、市内24カ所まで委託運営されている「あんしんケアセ

教育未来分科会：渡辺 忍(稲毛区)

里親制度を推進するためのNPO協働の普及啓発活動を評価し、新生児委託を含め、さらなる里親増加への取り組み、里親や里子の暮らしの支援を要望しました。放課後子ども教室は、スタッフ不足により、開催数・参加児童数とも減少し、運営方法には改善が必要です。見守る大人の存在が重要であり、子どもルームと一体的な事業を検討するなど、新たな取り組みを要望しました。その他、常時介助が必要な児童の安全確保のための「特別支援教育介助員」配置や、スクールソーシャルワーカー増員を評価しました。

決算審査特別委員会で3人の議員がそれぞれの分科会で決算についての審査を行いました。

ンター(地域包括支援センター)」について、医療と介護の連携に向けた取り組みを評価すると同時に、介護保険の手続き・認知症に関すること・医師の紹介等の相談が寄せられていることから、市の公的な高齢者総合相談窓口として、今後も機能の拡充を図るよう要望しました。